

知床遊覧船事故について

⇒	初心にかえって一人一人丁寧に対応していく。
⇒	自然に学ぶには危険があり、だからこそ情報、通信、確認
⇒	知床の安全のアピール
⇒	町は安心、安全に旅が（観光）できるように先頭を立て
⇒	知床に来る心に真心で対応
⇒	忘れてはいけないけどそこだけに引っぱられてはいけない。暗くなる住民の気持のケア（子ども）
⇒	座礁した程度だと思った、こんな大事故だと思わなかった
⇒	ウトロでこんな事故がおこると思わなかった
⇒	グランドヘリコプター
⇒	大変な事故が起きた！
⇒	うそ？まさか？
⇒	頭が真っ白…言葉にできない
⇒	大ショック、大投撃
⇒	いつもなら忙しい時期でもお客さんが少ない、ヒマ
⇒	すべて事故をふまえた上での活動・話になってしまった

知床遊覧船事故について

⇒	大変なことになった
⇒	これは大変な事故になるぞ（救難所員なので）
⇒	やっぱり
⇒	お客様の身を案じた
⇒	スタッフのことも心配
⇒	乗船してた人がどうなったか？
⇒	自然が変わらない
⇒	自分が事故を起こしたような気持ち
⇒	自分が何もできない、歯がゆい
⇒	捜索に出られた方への感謝
⇒	区切りがつかない
⇒	現実のことだと呑み込めない
⇒	経験不足（海をなめるな）
⇒	前日船をおろしたばかりだった
⇒	救助に行けない状況だった
⇒	二度とあってはならない
⇒	陸上も心配
⇒	港に行っていなかったのでわからなかった、驚いた
⇒	安全第一
⇒	情報の流出の是非
⇒	ヘリコプターの音、町にいるマスコミ
⇒	船の会社の責任の重さ
⇒	気持ちが暗くなる日が多かった
⇒	毎日テレビで流れていた
⇒	ブルーな気持ち軽いPTSD？
⇒	いつもと違う夏シーズン
⇒	仕事場にテレビ局の人が来た
⇒	マスコミのあり方
⇒	観光業全体へのダメージ
⇒	知床というブランドイメージの崩壊
⇒	観光業の他にも不況をまねいた
⇒	ツアー参加大幅減
⇒	謝罪

⇒	町民全体で来訪される観光客の方へのおもてなし、感謝
⇒	事故を忘れない為に4月23日何か行う
⇒	町、慰霊碑を作る
⇒	観光客や地元住民みんなが安心して暮らせる町づくり
⇒	町民全体のリスクマネジメント
⇒	町民お互いに関わり合うこと
⇒	ルール作りと監視
⇒	漁業者と観光船と連絡が必要
⇒	観光お客様に伝える責任
⇒	関係者が町民に対してお詫び

知床遊覧船事故について

⇒	大変なことが起きた！
⇒	事故を起こした当事者の考えが見えない
⇒	町職員が一生懸命に対応していた
⇒	ついにでたなと思った、残念
⇒	この地に来て1か月以内に起きたのでえ！ 天候の急変を知った
⇒	乗っていた可能性もあったので怖くなった
⇒	移住したばかりでショックしかなかった
⇒	移住したばかりで献花するくらいしかできなかったのが歯がゆかった
⇒	救えた命
⇒	知床自然遺産に傷がついた
⇒	観光PRができない
⇒	観光客の減少
⇒	観光収入の減少
⇒	移住に関するメディア取材への配慮
⇒	SNS等への投稿の配慮
⇒	子どもを含むイベントの自粛
⇒	ご家族のために風化させない仕組み
	発生日時の防災サイレンや黙祷
	桜の植樹
	ねぶたを灯ろうにしての慰霊、祭りなど
⇒	ボランティア活動、漁師の方々への支援
⇒	不明者を全員見つけられたら…
⇒	安心、安全を徹底しPRする
⇒	町民総ぐるみで誠意を見せる
⇒	漁業との関係も深い北方領土ロシアの協力もあった、もっと深い交流…
⇒	安全に対する町の取り組みももっと知ってもらいたかった
⇒	大変な事故であったが「斜里」が全国に知れわたった
⇒	行きたくないと思う人もいても、応援したいと思っている人もいる
⇒	SNS等をもっと活用
⇒	斜里を知ってもらったことをチャンスととらえ住みやすい町を目指す

知床遊覧船事故について

経営者に対して

⇒	経営者に怒りがわいた
⇒	やっぱり大事故が発生した
⇒	なぜ他と歩調を合わせなかったのか
⇒	なぜ出航したのか
⇒	連絡手段がなかったのに

⇒	大きな事故が起きて残念に思った
⇒	被害者が気の毒でならなかった
⇒	斜里からウトロに向かうとき景色を見るのがつらくなった
⇒	本当にそんなことがあったの？
⇒	驚き、ショッキング
⇒	寒かっただろうな
⇒	この寒さでは助からないな
⇒	災害が起きた時の対応が万全じゃなかった
⇒	気持ちが晴れやかにならない
⇒	報道を聞くたびに気が滅入った
⇒	海の写真をSNSに載せることを控えた（今は載せている）
⇒	外に向かって「知床」というワードを出すとき一瞬ためらいがある
⇒	遠い場所で暮らしている人にとっては過去のことになっている
⇒	観光面で大きな打撃となった
⇒	斜里（知床）に住んでいるというと「あの事故の？」と言われ続ける
⇒	自転車レンタル事業の安全対策の考え方より慎重に
⇒	防災対策の不十分さがある
⇒	献花台はウトロにつくってあげてほしい
⇒	被害者のご家族の希望することをできる限り実現させることが必要では
⇒	一町民としては事故のことは忘れず、でもいつも通りに日々を送ることが大切かなと思います
⇒	同様の事故を起こさなためにリスクマネジメントに努める
⇒	町＆関係者 被害者のご家族が求めている行動を
⇒	安全をどう示していくか
⇒	前に進んで行かなくては…（立ち止まったままではだめ）

知床遊覧船事故について

⇒	知床の船の事故を知ったときベテランの人がいない段階で運営していたことが驚きでした。周りの人が見て見ぬふりをしていたのか？
⇒	船を座礁させても何とか行けなかったのから思いました
⇒	多くの町民が遭難者のために花を植えるロード等を作ってはどうか
⇒	影響は携帯電話の届くところの確認等、世界遺産の手つかずの面と裏腹の所がある
⇒	事故を起こした当事者家族も知り合いだったので、困ったことになったなあと思いました。本当につらい事故でした。
⇒	えっ！どうして！
⇒	ゆるせない！こと
⇒	信じられない
⇒	怖かった
⇒	お客様、スタッフのこと、心配した
⇒	マスコミからの問い合わせ多数、みんな疲弊
⇒	乗船者が気の毒。冷たい海に投げ出され、全員死亡するなと思った。
⇒	船の事故で斜里のイメージが悪くなった
⇒	街のイメージを悪くした
⇒	すごい宣伝になっている、数年の辛抱
⇒	事故を起こした業者だけでなく、電波の届く範囲が確認されるまで客足は伸びないと思う
⇒	これから冬に向かう前に自衛隊に要請して大規模捜索をするべきです
⇒	ねぶたの中止。あっとコロナから抜け出したような気分だねぶたなど楽しみにしていた町民、旅人が残念がっていました
⇒	知床を応援したい周りからの声
⇒	意外と船に乗りたいと思うお客様が多い
⇒	いつもの違う夏シーズン、子供が少ない？
⇒	町中が冷めた感じ
⇒	夏の旅人は意外と気にしないで船（小型）に乗っている人も多かった。事故は悲しいけど、いろいろ問題があった部分が改善されて、プラスになっていく部分もたくさんあると思う
⇒	町民1人1人が前向きに町を盛り上げる努力をしていくこと。世代間の垣根を越えて
⇒	この事故を忘れてはならない。子ども達へもしっかりと伝える
⇒	全員二度と起こさない。船だけではなく、自分の生業でそのために何ができるか
⇒	全員？行政？コミュニケーション不足の解消
⇒	町？行政？利益を求めない、求めすぎないシステムづくりが必要
⇒	町があまり深入りしたら抜け出なくなる。疲れてしまいますよ。事業者あまりにも無責任。事業者責任の明確化

知床遊覧船事故について

⇒	もし、自分の家族がと考えるとつらい
⇒	楽しみに訪れた方々の無念さ
⇒	公開、何か手伝えたのでは
⇒	助からないだろうな、でも助かってほしい
⇒	死者への祈り
⇒	マイナスの部分で全国的に有名になってしまった
⇒	知名度が上がった
⇒	ツアー客減
⇒	船に乗らない観光客
⇒	観光は正念場。10年かかる
⇒	楽しむ前の祈りの場が欲しい
⇒	不動産売買
⇒	気を使われるほど変な空気になる
⇒	絶対に事故を忘れない。町全体で教訓とする
⇒	やりたいがやるべきことが見つからない
⇒	反省しながらも前を向いていきたい
⇒	安全をどう作る
⇒	観光の二次交通の早急な整備
⇒	追悼
⇒	国対策
⇒	船を出したところにあいさつぐらいしてほしい
⇒	情報公開（リスクの）
⇒	観光のリスタート

知床遊覧船事故について

⇒	身内が亡くなったときの気持ち
⇒	心に鉛のような重さ
⇒	斜里町は永遠に風化させてはいけない
⇒	職場で電話に出るのが恐ろしくなった
⇒	プロがいるのに
⇒	一人でも多く助かることを願った
⇒	どうにかできなかつたのか
⇒	祈り
⇒	どうしたらいいかわからない
⇒	すぐ助けが行くと思った
⇒	大変なことが起きた
⇒	なんで風が強かったのに
⇒	早く救助してほしい
⇒	ニュースで情報収集するしかない
⇒	大変な事故が起こってしまった。
⇒	(町外にいたので) 友人・知人は大丈夫だろうか
⇒	最前線へ対応した人のメンタル、Yahooニュースを見ていたら診療内科へ行きました
⇒	分断
⇒	観光客がずっと来なくなるかも
⇒	子ども達への影響
⇒	日本人の死生観
⇒	全体にダメージ
⇒	友人などから心配が多い
⇒	事故を起こしてしまった事業者の責任が感じられない
⇒	観光客の減少
⇒	イベントごとができなくなった
⇒	斜里に来てといえなくなってしまった
⇒	町民全体で元気がなくなってしまった
⇒	海を見ると何ともいえない気持ちになる
⇒	町として来てもらえるような発信
⇒	そろそろ前を向いて動き出しても
⇒	慰霊祭が開催されたら必ず参加したい
⇒	心情を吐露する場 (祭?)
⇒	忘れないこと
⇒	横のつながり
⇒	事故を風化せずに町民で進むしかない

知床遊覧船事故について

⇒	たいへん、かわいそうでした
⇒	大きな悲しみ
⇒	たいへんな事になった
⇒	大変な事故
⇒	こんな強風の中、ウソだろ
⇒	自然の厳しさ
⇒	連絡方法などこんなにユルユルだったのか
⇒	事故の客観的な検証
⇒	そのうち見つかると思った
⇒	ここまでの大事故だとは思わなかった
⇒	結果論ですが、起こるべきして起きた町全体の雰囲気も
⇒	農家の人方が心配でした
⇒	「知床」に負のイメージがついた
⇒	北海道に来た友人が知床を避けていく
⇒	イメージダウン
⇒	観光が心配
⇒	仕事は（私）影響ない
⇒	特に仕事への影響はない
⇒	すべて事故を前提にした活動になってしまう
⇒	ウトロ以外の人からの厳しい言葉をきくと自分に言われている気持ちになる
⇒	待っていても負のイメージは改善されない。SNSなどを使い、知床の生活などの発信を
⇒	前へ前へ、ピンチをチャンスに
⇒	事故の検証をふまえて、町に来る人たちの安全
⇒	外向けだけではなく町内向けの発信やケアも行ってほしい